

令和 2 年度ウミガラス保護増殖事業 実施計画 (案)
策定にあたっての検討事項

検討事項①：個体識別方法の検討

○課題

- ・飛来数が増加しているのは、天売島から巣立った個体が戻ってきているからなのか。
- ・天売島で繁殖しているウミガラスは、どこの個体群なのか。

○今年度実施した業務について

- ・今後の個体識別方法や個体群に関する遺伝子解析の検討に向けて、海外の文献を翻訳。

◆北太平洋や北大西洋のウミガラスの遺伝子解析の結果について

Population genetic structure in Atlantic and Pacific and Pacific Ocean common murre (Uria aalge): natural replicate tests of post-Pleistocene evolution
J. A. MORRIS-POCOCK (2008)

◆ウミガラスの繁殖地利用とつがいについて

Site use and fidelity in the Common Guillemot Uria aalge
Harris MP, Wanless S & Barton TR (1996)

※上記のほかにも、ウミガラスの生態（各年齢での生存率など）に関する海外文献のアブストラクトを翻訳。

○検討内容

- ・天売島のウミガラスについて足輪装着等の個体識別の方法が可能か。
- ・足輪装着を行う場合、どれほどの飛来数や、どの繁殖ステージで考えられるか。
- ・足輪装着のほかにも個体識別を行う方法は考えられるか。

検討事項②：音声装置の稼働方法の変更

○現状の稼働状況

- ・赤岩対崖直下付近の音声装置

ウミガラスを天売島に誘引するため、赤岩対崖の繁殖巣棚の直下付近に音声装置を設置。平成25年以前は4月の設置であったが、渡りの時期に合わせて平成26年以降は3月中に設置している。設置後は8月の回収まで稼働を続けている。

- ・繁殖巣棚内のスピーカー

平成28年から繁殖地内にもスピーカー1台を設置して、ウミガラスの鳴き声を流している。4月中に設置して8月の回収まで稼働を続けている。

○検討内容

- ・赤岩対崖での誘引をはじめて10年が経過。誘引方法を検証し効率的な稼働として、ウミガラス保全の他事業を進めていくようにする。

- ・音声装置は、繁殖期前のウミガラスを赤岩対崖の巣棚内に誘引することを目的としているので、稼働時期は5月まででいいのではないか。

○令和2年度の稼働方法（案）

- ・繁殖地直下付近の音声装置

3月中に設置して抱卵が開始される5月まで稼働させる。その後は、巣棚内のモニタリングカメラより状況を確認する。

- ・繁殖巣棚内のスピーカー

技術的に可能であるため設置を行ったものであるが、令和2年度はスピーカーの設置を行わず、モニタリングカメラより状況を確認する。